

都道府県対抗トランポリン競技 競技規程

【競技部門】

1. 年齢別トーナメント競技（予選）・都道府県対抗部門

下記、小学生以上の10部門で構成される。

予選の成績が都道府県対抗のポイントに反映される。

- | | |
|----------|-----|
| 10歳以下の部 | 男・女 |
| 11・12歳の部 | 男・女 |
| 13・14歳の部 | 男・女 |
| 15・16歳の部 | 男・女 |
| 17歳以上の部 | 男・女 |

2. 年齢別トーナメント・オープン競技部門（決勝戦）

下記、小学生以上からオープンの部：12部門で構成される。

- | | |
|----------|-----|
| 10歳以下の部 | 男・女 |
| 11・12歳の部 | 男・女 |
| 13・14歳の部 | 男・女 |
| 15・16歳の部 | 男・女 |
| 17歳以上の部 | 男・女 |
| オープンの部 | 男・女 |

※決勝進出者について

- | |
|--------------------------------|
| 1 各部門8名の選手で構成される。 |
| 2 オープン部門については都道府県を問わず、上位8名とする。 |
| 3 年齢別部門については各都道府県とも1名とする。 |

※付記

*年齢区分は全ての部門において大会開催年の12月31日現在の年齢とする。

【競技方法】

1. 年齢別トーナメント競技部門・都道府県対抗戦について

- ①年齢別競技部門毎に、最大16名のグループに分けて10種目の自由演技（難度点を持つ）を1回行い8名の予選通過者を選ぶ。尚、各部門とも参加者が8名以下であっても予選を行う。同点の場合は、有効演技得点の高い選手が上位となる。有効演技得点も同点の場合は跳躍時間得点の高い選手が上位となる。
- ②公益財団法人日本体操協会競技規則に従い、主審1名、演技審判員5名、難度審判員2名、跳躍時間審判員1名で採点にあたる。
- ③得点は、演技点(ミディアンスコア方式採用: 演技点x3) + 難度点 + 跳躍時間点を個人得点とする。
- ④主審は、競技の進行および試技に関わる全体を司る。
- ⑤難度審判員は、難度点を採点し、跳躍時間審判員は跳躍時間点を計測する。
- ⑥選手は、事前に競技カードに自由演技種目を記入し提出する。
- ⑦要求種目について、演技終了時に前方及び後方3/4宙返り以上の種目が1種目以上構成に入っていないなければならない。この条件で演技を終了しない場合は、難度点が0点となり、演技点のみが得点となる。

*「膝落ち」、「よつんばい落ち」は種目として認めない。この種目を行った時点で中断とする。

⑧各都道府県の獲得ポイント（現在の国体のポイント計算に準じて作成）

■各年齢区分の入賞ポイント

1位－8点、2位－7点、3位－6点、4位－5点、5位－4点、6位－3点
7位－2点、8位－1点

年齢区分内で同一都道府県が獲得できるのは2名までとし、順次繰り上げとする。

■参加点

年齢区分内関係なく参加している人数が何人であっても都道府県ポイントは10点とする。

年齢区分	男子 ポイント	男子 参加点	男子 合計	女子 ポイント	女子 参加点	女子 合計	総合計
-10							
11-12							
13-14							
15-16							
17-							

発表は、男子順位、女子順位、総合順位とする。

2. 年齢別トーナメント・オープン競技部門について

(1) オープン競技部門

- ①全部門を通じて予選参加者全員の中から上位8名を予選通過者とする。
- ②予選得点が同点の場合は、有効演技得点の高い選手が上位となる。
有効演技得点も同点の場合は跳躍時間得点の高い選手が上位となる。

(2) 年齢別トーナメント競技の決勝トーナメントについて

- ①各部門、8名の予選通過者によって、決勝トーナメントを行い、優勝者を決める。
組み合わせは、予選得点の順位から下記に示す通りとする。
男・女ともAブロック・Bブロックに4名ずつに分ける。
 - ・Aブロック（4名）2－7・3－6
 - ・Bブロック（4名）1－8・4－5

* 数字は、予選順位を示す。
トーナメント組み合わせ1回戦の試技順は、下記のとおり。
第1回戦（下位の選手が先攻）→ 6－3、7－2、5－4、8－1
- ②主審1名、演技審判員5名、難度審判員2名跳躍時間審判員1名で判定にあたる。
- ③5名の演技審判員は、第1演技者と第2演技者をそれぞれ10点満点で採点し、得点（演技点×2＋跳躍時間点＋難度点）の高い方を勝者とし、5名の判定員の多数決で次の対戦へ進ませる。
- ④判定結果の公表は、主審の「判定」の合図により各判定員の持つ紅白の旗で行う。第1演技者（先攻）を勝ちとする場合は紅旗、第2演技者（後攻）を勝ちとする場合は白旗を上げる。
- ⑤各判定員の採点において、同点の場合、その判定員は難度点の高い選手を勝ちと判定する。難度点も同点の場合、紅白2本の旗を上げ、引き分けの判定を出すことができる。
- ⑥主審は、競技の進行および試技に関わる全体を司る。
- ⑦1名の跳躍時間審判員と2名の難度審判員は、それぞれを採点し、得点板で公表すると共に、その都度、全審判員に口頭で知らせる。
- ⑧選手は、事前に競技カードに自由演技種目を記入し提出する。
* 難度点の制限については、予選の⑦項に同じ。

(3) オープン競技の決勝トーナメントについて

① 8名の予選通過者によって、決勝トーナメントを行い、優勝者を決める。

オープン競技の決勝トーナメントの出場権を獲得した選手は、年齢別競技の決勝トーナメントに出場することは出来ない。

組み合わせは、予選得点の順位から下記に示す通りとする。

男・女ともAブロック・Bブロックに4名ずつに分ける。

・Aブロック（4名）2－7・3－6

・Bブロック（4名）1－8・4－5

*数字は、予選順位を示す。

トーナメント組み合わせ1回戦の試技順は、下記のとおり。

第1回戦（下位の選手が先攻）→ 6－3、7－2、5－4、8－1

②公益財団法人日本体操協会競技規則に従い、主審1名、演技審判員5名、難度審判員2名、跳躍時間審判員1名で採点にあたる。

③対戦は演技点（ミディアンスコア方式採用：演技点x3）と跳躍時間点、難度点の合計得点により判定され、合計得点の高い選手が勝者となる。合計得点が高同点の場合は、演技得点の高い選手が勝者となる。

演技得点も同点の場合は跳躍時間得点の高い選手が勝者となる。

④主審は、競技の進行および試技に関わる全体を司る。

⑤難度審判員は、難度点を採点し、跳躍時間審判員は跳躍時間点を計測する。

⑥選手は、事前に競技カードに自由演技種目を記入し提出する。

*難度点の制限については、「年齢別競技の予選」の⑦項に同じ。

3. 各種表彰について

(1) 都道府県対抗戦部門

表彰は、総合優勝の都道府県に賞状を授与する。

(2) トーナメント競技部門

①最高演技点賞について

最高演技点賞は、男・女とも年齢別予選の演技得点が対象となる。

最高演技得点が同点の場合は跳躍時間得点が高い選手を対象とする。

該当者には、トロフィーを授与する。

②最高難度点賞について

最高難度点賞は、男・女とも決勝トーナメント時の難度点が対象となる。

同点の場合は、次の基準で決定する。

・決勝トーナメント全対戦の合計難度点で決定する。

それでも同点の場合は、同じ賞を与える。

該当者には、トロフィーを授与する。

4. その他の規程については、公益財団法人日本体操協会競技規則による。

1995年	1月	1日	改訂版
1996年	3月	24日	一部改訂
2001年	3月	20日	一部改訂
2002年	5月	3日	一部改訂
2003年	3月	2日	一部改訂
2005年	4月	1日	一部改訂
2008年	2月	24日	一部改訂
2009年	2月	1日	一部改訂
2009年	12月	25日	一部改訂
2011年	11月	30日	一部改訂
2012年	11月	5日	一部改訂
2016年	1月	16日	一部改訂